

令和2年度 第2回企画委員会 論点メモ

“よそもん”から“じのもん”になってもらうには

コロナ禍により、移住・定住希望者が増加しており、地方は移住相談への対応やお試し居住など様々な施策に取り組んでおり、さながら人の誘致合戦の様相を呈している。こうした移住への関心の高まりを一過性のものにせず、観光客（よそもん）から関係人口へ、さらに移住・定住（じのもん）につなげていくためには、どのような工夫が必要か。

○ 移住希望者に地域の情報を届けるための取組

- ・ 移住希望者が求めている情報とはどのようなものか（どの自治体も自然の豊かさや、先輩移住者の声等は発信しているが、行政側が発信したい情報になっていないか）。
- ・ 情報を届ける（特に東京や大阪に住む人に）にはどのようなチャンネルを用いたらよいか。
- ・ 他の自治体との差別化をどう図るか。

○ 移住者に地域に馴染んでもらうための取組

- ・ 地域の住民として馴染むために必要な取組とは（移住者側、地域側の両面から）
- ・ 行政の役割は？（例えば、移住希望者と地域とをつなぐコーディネーター、コンシェルジュの育成・設置など）

○ 地方での暮らしに必要な生活機能

- ・ 情報通信環境の整備やテレワークの普及により、仕事を遂行する面では都会と地方との差がなくなりつつある一方で、日常の買い物や飲食、娯楽施設がほとんど無いなど、大都市と比べると不便な所もあることは事実
- ・ 特に若い人を地方に呼び込むためには、どの程度の利便性が必要か